

はーと&はーと

東海市国際交流協会会報 (No. 165)



(冬至池・加南ふれあいの森)

地球の仲間たち

ノーステキサス大学からのメッセージ

ノーステキサス大学日本語上席講師 竹内弥生さんから現地における次のような近況報告を戴きました。

副会長 桜井敏彦

東海市国際交流協会の皆様におかれましては、益々ご清栄のことと存じます。新型コロナウイルスの影響は2年を過ぎててもまだ収束の出口が見えづらい状況ですが、折合いをつけながら新しい希望を持ち、新年の様々な活動ができるよう期待しています。

私が勤務するノーステキサス大学があるテキサス北部ダラス・フォートワース都市圏は、トヨタ自動車北米本社が数年前より本格稼働を始めたことにより多くの日系企業が集まる地域に成長しています。学生たちもその恩恵を受け、卒業後日系企業に就職したり、またJETプログラムなどを通して来日し、英語指導助手として子供達の英語教育の一助となる例も年々増えています。

本学では2017年より日本語専攻を開設し、地域や日本を始めとする世界をつなぎ貢献できる人材を育てるべく日々努力をしています。しかしながらこの2年間は、世界中の皆様と同じく、コロナ下の不自由を強いられてきました。2020年春は全面オンライン授業、2021年秋は3密を避けてクラスを2つに分け、半分の学生は月曜日、残りの半分は水曜日、Zoomで金曜日は全員授業というオンラインと対面の組み合わせ授業を実施し、今学年度(昨年8月末から)は一年ぶりに全面対面授業を再開してきました。言語の学習においては、対面でのやりとりが非常に大切なので、直接話しながらの授業が再開できたことは大変ありがたいことでした。もちろんマスクは常に着用

必須。マスクの趣味で個性を発揮する学生も見られました。キャンパスの活動も一部ですが対面でのイベントもでき、久々の昔の日常が少しだけ戻ってきた気分を味わうことができました。

しかしながら、一年以上をオンラインに頼った授業で進めてきたツケは深い部分で影響を与えています。メンタルの問題や学習レベル低下の問題で、学生課からは、様々な障害を抱える学生を欠席扱いにしないことや、課題提出期限の延長など手厚く保護するよう伝達が途切れることなくありました。Zoomのようなアプリが救世主となったこのパンデミック下の授業ですが、学生の自主性やメンタル面、ネット環境の良し悪しの影響も問われる厳しい現実を生み出しています。

これまでに2011年より8つのグループ、計121名の学生がホームステイでお世話になりました。学生の日本語熱は定着し、専攻の学生数も伸びています。コロナに負けない強い意志で、学生には日本語や文化を学ぶことで豊かな成長を期待しています。このコロナ下において、しばらくは仮想のホームステイ体験やオンライン交流など新しい形の交流の機会を作り、皆様と楽しい学びや交流が実現できたらすばらしいと思っています。その節はどうぞよろしく願います。「コロナにも負けず」の精神を大切に、本年も様々な活動を楽しみにしています。

東海市国際交流協会は 会員が主役です

協会活動あれこれ I

会員のつどい「己書体験」を開催

2022年1月10日(月)の成人の日に、東海市立商工センター1階多目的ホールで会員のつどい「己書(おのれしょ)体験」を開催しました。従来、会員のつどいは会員同士の親睦と慰労的な面も担っていましたが、コロナ禍では飲食、過密を避けて感染防止を第一に取り組みました。事前の参加申し込み者は36名でしたが、当日は一般社団法人日本己書道場から講師3名を招き、合計30名が参加しました。

己書とは文字を心のままに書くもので、体験では筆ペンを使って筆文字とは異なるデザイン化した書体の書き方を練習し、葉書に清書しました。出来上がった作品は机に並べて、ほかの体験者の書いたものと見比べながらそれぞれの思いを話したり、感性の違いを味わいました。

委員長 吉松 くに子

会員のつどいに参加して

己書体験でわたしはふでペンをはじめてつかいました。漢字をうまくかけませんでした。すてきなはがきができてうれしかったです。はがきをかぞくにみせたら「すご〜い！りょうしんに送みましょう」っていわれました。今回、己書のことをはじめて知りました。新しいはっけんでした。これからもふでペンを使ってみたいです。このおもしろいイベントにさんかして良かったです。(原文のまま) サマラ ヴラディスラヴァ(ウクライナ)

初めて筆ペンの己書体験をしました。先生方は優しく教えてくださいました。ひとつひとつの字にうごきがあり、絵の様な書き方ですごく楽しかったです。いろいろな字を書いた中で一番気に入ったのは「ありがとう」です。なぜなら日本に来て以来沢山の方々にお世話になり私はいつも感謝の思いでいっぱいだから、また機会があれば参加したいです。

西城 俊娜(中国)

今年度初めて会員になって、「会員のつどい」に参加させていただきました。最初「己書」というものが習字みたいなものだと思っていました。私は筆できれいに文字を書くことはあまり得意でなく、そのため筆ペンも使ったことがなかったので少し心配していました。しかし、参加してみるときれいに字を書くものでなく、自分の気持ちを込めて描くというものだと教えてもらい、想像以上にすらすらと描くことができるとも楽しかったです。今までは筆ペンを使うのを避けていたけれど、今後はもう少し筆ペンも使ってみようと思います。

森 遼大朗



“You didn’t hear? They **moved to Osaka**”
「聞いてなかった？あの家族大阪へ**引っ越した**のよ」
「最近〇〇さんたち見ないわね」と言われて、教えてあげる時に「～へ**引っ越す**」は **move to** で。

外国にも切り絵はあるの？ 4

紙を切ることでアート表現する手法は外国でもよく知られます。スイス地方で知られるものに Sherchnit (シェーレンヒュット) といわれるものがあります。ポーランドビチナンカとよく似ているのですが、作品はより繊細で様々な模様や文字などをレース編みのように織りこんだ特徴的なものです。



左右対称、放射状などのものや、形式のない自由なデザインのものもあり、制作には眼科医が使用する先の細い特殊なハサミが使われることが多いようです。

桜井 敏彦

東海市探訪

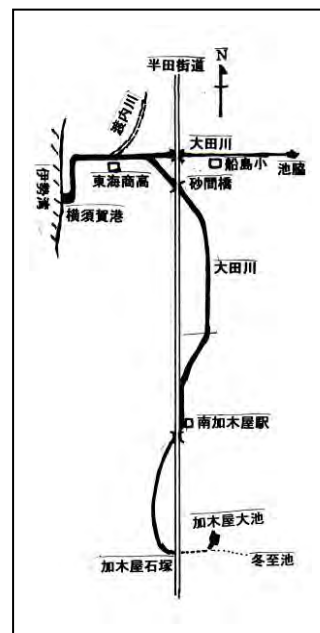
大田川はどこから流れ出している？

「♪～この川に沿って歩いてみたい、この川に沿ってどこまでも・・・♪～♪」

学生時代にギターを奏でながら歌った歌を思い出しながら、大田川に沿って河口から歩いてみました。川がどこを起点としているのか調べてみたかったからです。

伊勢湾に流れ出ている河口は横須賀港から北上し、大田町の川南新田から直角に折れて東に向かいます。太田川駅付近を流れながら東海商業高校北の張本橋で北から流れ込む渡内川が合流しています。大田川はさらに東へ続き、半田街道の砂間橋手前で東と南の両方向から流れる2つの大田川が合流しています。東から来る流れは約1km先の池脇というため池から始まっていました。

南からの流れは半田街道沿いに東側を遡りながら、南加木屋駅を越えてすぐ先の橋をくぐると街道の西側に移ります。さらに南に続いて加木屋石塚の交差点を暗渠でくぐると再び東側に戻りますが、交差点からはずっと暗渠で続きます。その先に加木屋大池があり本流はここから流れ出ていました。しかし、道路沿いの暗渠はさらに東に続いて途中から側溝となって冬至池の方まで溯っています。川の支流かどうかは不明ですので、大田川の支流は大池が起点といえるでしょう。大田川と渡内川の2つの流れから、東海市内では大田地区が他の地域と比べて海拔が低く、さらに横須賀港周辺の元浜地区が最も低い土地ということがわかります。(会報委員)

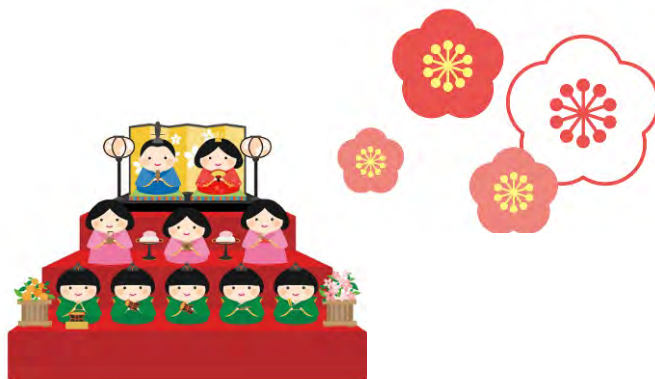


世界のお菓子 クルブック Kerupuk

クルブックはインドネシアのエビせんべいです。

毎回、簡単なレシピを掲載していますが、今回は油で揚げるだけで出来上がる市販品のクルブックの素を紹介します。

以前、インドネシアに住んでいた友人がインスタント食品を箱詰めにして送ってくれました。中身は袋から匂いが漏れ出ている数種のスパイス、ラーメン、焼きそば、お菓子などでした。中にひとときわ大きい袋があり、エビせんが入っていました。小袋には揚げる前のチップ状のものが数種類あり、油で揚げるだけだから色々試してみて、とのことでした。その薄っぺらな板のようなものを油に入れると、あっという間に5~6倍か、もっと大きくなって驚きました。サクサクとした軽い食感は日本の雛あられに似ていました。しかし、これはお菓子ではなく、料理に添えるものとのことで、インスタント焼きそばの袋にも写っていました。



もうすぐ立春です。お雛様を飾り、雛あられもお供えします。今は買ってくる人がほとんどで、作る人は少ないでしょう。子供のころ、3色のお餅を炒って作ったコロコロしたあられを食べた思い出があります。材料はもち米やもち粉、インドネシアのエビせんは、キャッサバ芋から作るタピオカ粉です。原料は違っても、似たようなおいしいものができるのですね。私はクルブックのサクサク、雛あられのほんのり甘い温かさ、どちらも好きです。

今は輸入食品を扱う店で数種のクルブックのチップが売られています。

油っぽさなどは気になりません。

あっという間にパワーと大きくなります。

お試しを！

竹内 かずこ



= INFORMATION =

はーと&はーとほか予定事業中止

1月24日(月)午後、市役所秘書課職員2名と事業委員の会合で、今年度予定している協会事業について協議し、コロナ感染拡大の不安から次の3事業の中止を決定しました。

「はーと&はーと」…2月6日(日)に東海市芸術劇場で予定していたもの

「交流バスハイク」…3月13日(日)に計画していたもの

「ボランティア研修会」…2月15日(火)、16日(水)に予定していたもの

企画を進めてきた事業委員の皆さまのご苦勞も無駄になりましたが、感染防止を第一と考えての決定ですのでご理解をお願いします。

なお、以下の事業については、個別に判断して随時情報を発信していきます。

日本語教室

日 時：第1・第3日曜日 14:00～16:00 (緊急事態宣言発令中はオンラインで)

第2・第4日曜日 19:00～20:30 (オンライン授業)

場 所：東海市立商工センター3階中会議室他

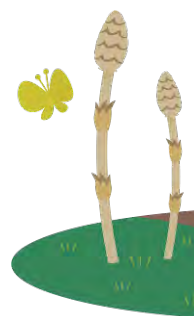
子どもといっしょに日本語教室

日 時：第1・3木曜日 10:00～12:00

場 所：しあわせ村研修室他

(託児を希望される方は事前にご連絡ください)

フェイスブックQRコード



外国につながる子どもの学習支援教室

事前に事務室へお問い合わせください。

日時：毎週金曜日 18:30～20:30 / 場所：東海市立商工センター3階中会議室他

外国から来た子どもに宿題や勉強を教えるボランティアを募集しています。興味のある方は事務室へご連絡ください。

在住外国人生活相談

英語、中国語またはタガログ語による生活一般相談

随時電話にて受け付けます。(予約制) ご希望の方は事前にご連絡ください。

※ 上記事業の詳細は事務室またはホームページ、フェイスブックでご確認下さい。



お問い合わせ等は協会事務室まで

open 月～金曜日 9:00～16:00 (祝日はお休み)

協会事務室が留守の場合は市役所秘書課

TEL052-603-2211、0562-33-1111

ホームページ <http://www.medias.ne.jp/~tia/>

E-mail tia@ma.medias.ne.jp

発行日 令和4年2月1日

編 集 東海市国際交流協会会報運営委員会

発行者 東海市国際交流協会

〒 476-0013 東海市中心街四丁目2番地

TEL 0562-32-5339

FAX 0562-33-9029